

令和7年度 第1回みなみ協議会議録

【日 時】令和7年7月24日（木）14:00～15:30

【場 所】本校2階会議室

【出席者】神奈川県立保健福祉大学副学長 金井 信高様

横須賀市立久里浜中学校長 新田 将之様

横浜fカレッジ専門学校教務部長 小松 加代子様

アンガージュマン・よこすか理事長 島田 徳隆様

元久里浜中学校長 関島 忍様

校長 片岡 浩介 副校長 金井 一夫 教頭 櫛引 裕雄

教務G 大石 昌宏 進路G 二瓶 次夫 総務G 小川 浩二 広報連携G 林 瞳

生活指導G 長島 円 生徒活動G 山崎 泰 生徒相談G 小松原 肇 (15名)

1、あいさつ

・会長あいさつ

コロナ再流行への懸念はあるが、新校長のもとでの話し合いを楽しみにしている。

・校長あいさつ

この暑さだが、現在熱中症による救急搬送はゼロ。福祉科の生徒が介護技術コンテストで2部門最優秀賞を受賞。8月末に千葉で開催される関東大会に出場予定。体調管理には十分気をつけてほしい。

2、委員自己紹介（省略）

3、協議内容

（1）学校目標について

学校全体の4年間の目標は変更なし。

昨年度、グループ構成を見直し、「研究開発グループ」の業務を整理。（生徒に関わる業務を手厚くした学校評価報告書に準じた取り組みを実施中。

（2）令和7年度 年間行事予定

予定は別紙で提示。

主な行事：学校説明会、進路指導行事、研修旅行（関西方面 万博見学を含む）、文化祭、入学者選抜（1月～）、卒業式（3月3日）、年度末の学習成果発表会

（3）各グループの取組について

◆ 教務

「研究開発グループ」の業務（「みなみスタイル」に係る業務、授業評価等）を引き継ぐ。

基本業務を着実にこなし、事故防止に注力。

新着任教員への情報共有を重視。「みなみスタイル」の教育方針の定着を図る。

普通科・福祉科それぞれのカリキュラムも検討。

◆進路

3年間の進路のプログラムを作成して取り組んできた成果が出始めている。

社会実践・インターンシップを通じて、職業観を育成。

3年生には複数の企業を見学させ、納得のいく進路選択を支援。

20社以上の企業を学校に招き、生徒が直接企業の方の話を聞ける機会を多く設けている。

◆総務

防災訓練を継続し、防災意識の定着を目指す。

ICT環境維持を重視。AIの有効活用に向けたガイドライン（たたき台）作成中。

◆広報・連携

中学生向け説明会では、2年生の参加も増加。

OSS（生徒スタッフ）の導入。生徒の写真を用いたチラシを作成。

中学生・保護者にわかりやすい情報発信を目指す。

◆生活指導

引き続き問題行動の事前防止型指導を継続。

生徒相談グループと密に連携し、予防的支援を推進。

◆生徒活動

昨年度の生徒会活動の引き継ぎと実施。

部室の整理・入替を行い、部活・委員会の活性化を目指す。

◆生徒相談

スクールカウンセラー（SC）・スクールソーシャルワーカー（SSW）との橋渡しと情報フィードバックを実施。

「みなみスタイル」の定着を実感。最前線に立っている担任を手助けしたい。

1学期のSC・SSW利用者は60人前後。約半数の生徒が「サポートドック」の支援対象となる現状を共有。

（4）質疑応答・意見交換

◆金井委員より質問

外国ルーツの生徒はクラスにどれくらい在籍し、どんな課題があるか？

→学校側回答

正確な資料はなし。ルビをつけるなどの対応はあるが、支援しきれない部分もある。日本の学校への途中入学が原因か、個人特性に起因するかは不明。個別対応が必要。

◆新田委員より意見

中学校では、各学年30人程度の支援対象生徒がいる。情報が分野ごとに分かれており、支援の煩雑さが課題。中学でのSSW活用も難しさがある。情報一元化の仕組みが必要だと考えているが、高校ではどうか。

→ 学校側回答

- ・生徒の資料については、グループ内では整備されているが、全体には周知していない。入力者の明確化に課題。
- ・生徒数が多く、学習支援は厳しいが、支援自体は初年度から継続している。
- ・ちょうど本日、SSWによる研修会を実施した。普段から連携が取れており、SSWもが迅速に対応してくれる所以、うまく回っている。
- ・県立学校全てにSC・SSWが配置されている。どのように運用されているかは、それぞれの学校による。本校は教育相談についてもある程度確立されているためSSWが活躍しやすい環境がある。SC・SSWの枠を超えてお願いするときは、あらためての依頼が必要。本校はそのパターンが多い。
- ・中学校からの引き継ぎが多く、生徒理解に役立っている。

◆島田様からのご意見

- ・外国籍の生徒の対応に学校は苦慮されている。県に人員配置を配慮してもらえるようにしてほしい。
- ・3月の学習成果発表会を見た。子どもたちが主人公、子どもたちが運営しているイメージで発表ができていた。関係者だけでなく、保護者や地域の方に発信できないか。個人情報のこともあるので、難しいかもしれないが、中学校の指導部の先生に見に来てもらうなど。文化祭や発表会の様子を動画にするなど。
- ・生徒とのかかわりについてはこのまま継続してもらいたい。
- ・みなみスタイルが教職員に浸透していることについて、先生方の努力がうかがえる。

◆小松様からのご意見

- ・OSSが良い。専門学校でも生徒がいるかいないかで来校者の印象が違う。来てくれる人にとって安心材料になる。SNSの活用が可能であれば、ショート動画などを活用するのはどうか。
- ・卒業後の定着率についての追跡は、専門学校でも課題。働き続けるためのメンタル面の指導や支援も視野に入れるべきか。
- ・AIは他業種で必要。「知っていて正しく使える」が大切。文字起こしなどに活用できる。

【各部会議録】

評価部会（新田様・小松様・二瓶・山崎）

＜学校の中でどのようにAIを活用していくか＞

- 教員がワークショップ等で話し合い意見を交換する。その意見をすべてAIに分析させる。
- データをAIで分析し、多く出てきたワードは何かから考察する。
- アンケートの結果（文章）などもAIで分析するなどして活用していく。
- 例えば学校目標における具体的な生徒像を考える。
- 目標を自分事としてとらえることや、教員の視点を生徒の視点に合わせることも必要となる。

クリエイティブ部会（島田様・関島様・大石・小松原）

- 先日、福祉科が出場した「神奈川県高校生福祉研究発表会」において、ベッドメイキング部門と介護技術部門で優勝し、関東大会に神奈川県代表として出場することになった。
- そのような取組や活動が「自己肯定感」「自尊心」などに好影響を与える。
- 新入生は、生徒間のトラブルやSNSでのトラブルなど様々なことがあった。改めて、やってはいけない

いことをしっかりと続ける必要性を感じた。

○兄弟で入学する生徒も多い。学校生活への安心感にもつながっているのではないか。偏差値などではなく、学校に対する信頼感のあらわれかもしれない。

○「横須賀南なら大丈夫」という感覚があるのだろう。

○ストレス耐性のある子は少ない。そういう中で、様々な課題を抱えている生徒は先生を試しているのかもしれない。

○自己肯定感の低い生徒が多く、話す言葉に自信がない生徒が多い。とにかく、認めてあげることが大切かもしれない。

○良いことでほめる、声掛けをすることは、本校で本当に意味があること。この集団の中でリーダシップをとれる生徒もあり、成長していく生徒は少なくない。

※福祉部会は欠席者が多く未開催とした。